

2022.01.09. 異なった教えを拒否する

ヘブル人への手紙 13 章 8～16 節

JD ファラグ牧師

おはようございます。第二礼拝へようこそ。日曜日の朝は、二つの礼拝があります。第一礼拝は、毎週行っている「聖書預言・アップデート」です。そして、第二礼拝は説教です。これは、神の御言葉を聖書を通して一節ごとに学ぶものです。現在、ヘブル人への手紙に入っていますが、ほぼ終わりを迎えています。御心に添うなら、今日の聖書箇所は 13 章 8 節から 16 節です。それでは御言葉を読みます。ここにいらっしゃる方で、もし可能であればご起立ください。無理な方は座ったままで構いません。私が読みますので、ついて来てください。ヘブル人への手紙の著者は、聖霊によってヘブル人クリスチャンに書き送っており、8 節でこう述べています。

ヘブル 13

8 イエス・キリストは、昨日も今日も、とこしえに変わることがありません。

これでまさに、決まりですね。(笑)

9 様々な異なった教えによって迷わされてはいけません。食物の規定によらず、恵みによって心を強くするのは良いことです。食物の規定にしたがって歩んでいる者たちは、益を得ませんでした。

10 私たちには一つの祭壇があります。幕屋で仕えている者たちには、この祭壇から食べる権利がありません。

11 動物の血は、罪のきよめのささげ物として、大祭司によって聖所の中に持って行かれますが、からだは宿営の外で焼かれるのです。

これに注目してください、興味深いと思います。

12 それでイエスも、ご自分の血によって民を聖なるものとするために、門の外で苦しみを受けられました。

13 ですから私たちは、イエスの辱めを身に負い、宿営の外に出て、みもとに行こうではありませんか。

14 私たちは、いつまでも続く都をこの地上に持っているのではなく、むしろ来たるべき都を求めているのです。

15 それなら、私たちはイエスを通して、賛美のいけにえ、御名をたたえる唇の果実を、絶えず神にささげようではありませんか。

16 善を行うことと、分かち合うことを忘れてはいけません。そのようないけにえを、神は喜ばれるのです。

わーお。祈りましょう、よろしければご一緒をお願いします。今日、私たちの前にあるこの御言葉を理解できるように、主の助けを求めます。

愛する天の父よ、私たちは、あなたの御言葉と、この、あなたの教会に感謝しています。私たちが今いるこの場所、人生の忙しさやストレスから解放されて訪れることができる場所です。そしてあなたの御言葉の中で、あなたが私たちに用意してくださったものに、ただ注意を向けることができることを、とても感謝しています。主よ、ここにいるのは理由があり、あなたはそれが何であるかを、お示しになられます。あなたは、今日私たちに与えられた御言葉の中で、それを通して私たちの人生に語りかけてくださいます。だから私たちはここにいるのです、主よ。あなたが語られることを聞かせてください。そして、私たちの心を迷わせたくありません。あなたに集中して心に向けさせてください。あなたが私たちの人生に

語りかけるとき、私たちはただ聞くだけでなく、あなたの御言葉に従うことができますように。ですから、どうか主よ、私たちのためにそれをなしてください。どうかお語りください。あなたのしもべは聞いております。私たちは、あなたをととも愛しています。イエスの御名で祈ります。アーメン、アーメン。ご着席ください、ありがとうございます。今日は、異なった教えの危険性と、それを拒絶するための見分け方についてお話ししたいと思います。その理由は、今日の箇所、ヘブル人への手紙の著者は信者たちに、「様々な異なった教え（奇妙な教え）」に迷わされないようにと、非常に具体的に警告しているからです。「あらゆる種類の奇妙な教え」、この時代には数多くの奇妙な教えがあったと推察されます。そして、このことに関して彼らに警告し、注意し、さらには励ましているのです。このようなことに惑わされてはいけません。それは福音とは異なっています。それらは神の御言葉とは異なっています。そうすることで、それらは何を目的とするのでしょうか？ 私はこの箇所の教え方を少し変えて、御言葉の中から質問を投げかけたいと思いますので、お付き合いください。健全な教義とは異なるものに関して、私自身も含めて、すべての人が問いかけ、答えるべきだと思う三つの質問です。このような異なった、奇妙な教え。神の御言葉と相容れないと、どうしてわかるのでしょうか？ それを見極める方法、それを知る方法があれば、それらとは何の関係もなく、最悪の場合でも、惑わされることはないでしょう。最初の質問は、8から9節にあります。こうです。「それは、私を恵みから遠ざけるものか？」ここではまず著者は、イエス・キリストは、昨日も今日も、とこしえに変わることがない、と述べています。つまり、これには深い意味があると思いますが、「イエスは変わらない」ということです。繰り返しになりますが、先ほども言ったようにそれが深い意味を持つことは分かっていますが、キリストは同じであり、変わりません。詩的な表現になってしまいますが、ご容赦ください。でも、もしそれが違ったもので、イエスを変えてしまうのであれば、それはおかしいのです。我慢してお付き合いくださいと言いましたよ。イエスを変えてしまうのなら、それはおかしいのです。なぜなら、イエスは変わらないからです。イエス・キリストは、昨日も今日も、とこしえに変わりません。イエスは変わりません。ところで、あなたは嬉しくないですか？ もしイエスが変わったらと、想像できますか？ 人のことを「あなたは変わった」と言うことがありますよね。「何が言いたいのか？」「いやあ、本当に変わりましたね。」「良い変化？」「いいえ、でも本当に変わりましたね。」まあ、あまりよくないですね。そんな風になりたくないですね。いい意味で変わりたい。つまり、イエスは変わらないということです。イエスは完璧であります。あなたは完璧になれません。さて、ここで問題です。昨日も今日も永遠に変わらないイエスがおられて、でも、こっちは、少し異なったものがあって...なぜなら、それが真実であるためには、イエスが変わる必要があるのです、ちょっと奇妙な感じですよ。「新しいければ真実ではなく、真実であればそれは新しくない」という言葉を、聞いたことがあるでしょうか？ 間違ってますよね？ あなたがたの目を見ていると、疑ってしまうのですが。しかし、真実であれば、新しいものではないし、新しいものであれば、真実ではありません。ここで、「新しい見識」を持った人が現れます。くれぐれも注意してください。むしろ、彼らから逃げてください。「新しい？ 新しいとはどういう意味ですか？」「今まで聞いたこともないような、神の御言葉を深く理解する、新しい見識なのです…！」彼らは、こんな風に言うのです。というか、失礼ですが.....私の聖書のヘブル 13章8節には、「イエス・キリストは、昨日も今日も、とこしえに変わることがありません。」と書かれています。統一性があります。変化はありません。ちなみに、ヤコブは次の書ですが、「移り変わりや、天体の運行によって生じる影のようなものはない」と言っています。(ヤコブ 1:17 参照) 言い換えれば、神は移り気ではなく、気まぐれでもなく、揺れ動いたりされません。違います。神は決し

て変わらず、同じです。神は昨日と同じ神であり、今日も同じ神です。ところで、明日も同じ神であることに変わりはありません。何も心配する必要はありません、神は変わりません。そして、神の心も変わりません。あなたは想像できますか？ もし、神が考えを変えられるとしたら、どれほど奇妙なことでしょう？ あなたが祈っていると、神は、「ああ、そんなことは考えたことがない」と言うのです。「OK、いいところに気がついたね。」嫌です！私は今本当に混乱しています、なぜなら今や、神が変わっているからです。いいえ、神は変わりません。イエスを変えるようなことがあれば、それは、福音に反することになります。それが福音と異なっていると分かる方法は、それが恵みの福音ではないからです。ヘブル人の手紙の著者が、「私たちは恵みによる」と言っているところに注目してください。すべてが恵みであり、儀式や律法や規則や、やるべきこと、やってはいけないことではないのです。それは恵みではなく、イエスでもありません。それは変です。それはおかしく、それは異なっています。それは、イエスがどの様なお方であるかということと相容れず、神の御言葉とも相容れません。あなたを恵みから遠ざけるものであれば、それは主ではないということを、何の疑いもなく、確実に、確信を持って、知ることになるでしょう。それが、このヘブル人クリスチャンの問題でした。ユダヤ教に戻ろうとする誘惑、儀式に戻ろうとする誘惑がありました。幕屋、神殿、祭壇、そしてこれらすべての「やるべきこと」と「やってはいけないこと」に戻りたいという誘惑です。それが律法というものです。律法は「行い、行い、行い」と言いますが恵みは、「完了、完了、完了」と言います。それが恵みです。もし誰かが、あなたに何かを提示して、そこから遠ざけるようなことをしたら.....違う、出て行け。「下がれサタンよ」と、イエスがペテロに言ったように。ペテロはさぞかし傷ついたことでしょうね。なぜなら、イエスが彼にこう言われた直後だったからです。

「バルヨナ・シモン、あなたは幸いです。このことを明らかにしたのは主です。」(マタイ 16:17 参照) ペテロは「あなたは岩です」と言われたばかりで、ペテロは得意げでした。そして、その数節後、突然、同じペテロに向かって、「下がれサタンよ」と言われたのです。おう、なに？ 何が起きたんだ？ もし誰かが私のところに来て、私を律法主義に引き込もうとしたら、それはイエスではないので、私もそのように率直に言うつもりです。それはおかしいのです、なぜならイエスは変わらないからです。恵みです、恵みがすべてです、すべてが恵み、神の恵みです。ここで、10 から 14 節の、2 つ目の質問をします。

「それは私を、自己への死から遠ざけるか？」どうか、お付き合いください。10 から 14 節では、著者が、当時彼らが扱っていた儀式や祭壇に関することを具体的に述べています。そして、著者は彼らの焦点を当て直し、方向転換させ、さらには正して、神殿に行って祭壇に向かわなければならないという思いから、彼らを遠ざけなければなりません。彼らへ言っていることは、「私たちは拒絶された救い主に従っているのです。私たちの従う救い主は、都の神殿に祭壇を持っていません。私たちが従う救い主は、都の外に十字架を持っています。」それが問題なのです。なぜなら、イエスに従うためには、自分の十字架を負い、自分自身に死ななければならないからです。もし、イエスの弟子になりたいのであれば...

ちなみに、それは”毎日”と書いてあります。日々です。(ルカ 9:23 参照)

”日々”の意味はわかりますよね？ 毎日のことです。そして、私の中のすべてのものがそれに抵抗しています。自己への死？ いいえ、私は自分を守ることを重視しています。自己への死...

「ねえ、牧師さん、通りに出れば他の牧師がいて、そこには大きな教会もあります。彼は、あなたほど長い説教はしませんよ。彼は、そんなことをする必要はないと言ってくれます。神に愛されているから、大

丈夫。皆で円陣を組んでハグをしましょう、と。」彼は福音を説いているのではなく、御言葉を説いているのでありません。これから逃れることはできません。悲しいことに、こんにちの世界では、特にあらゆることが起こっているこんにち、神の御旨全体、神の御言葉全体を教えている教会を見つけるのは難しいでしょう。なぜなら、このように聖書全体を教える場合、今日のような箇所を読み飛ばすことはできないからです。ああ、牧師さんすごいですね、みたいな目で見ないでくださいね。そんなことはありません。神は真実をご存知です。できることなら、そうしたいですよ。冗談でしょ？ もし御言葉を局所的に教えていたら、普通こんな話はしません。冗談でしょ？ ヘブル人への手紙 13 章？ 祭壇、都の外での犠牲、恥、不名誉、恥、辱めを負い、自己に死に、自分の十字架を負う。私はむしろ、巨大なコロシウムで、世界中の人々に、「自分に死ぬ必要はない、今、最高の人生を送ることができる。自分を愛しなさい。」と伝えたい。ああ...、おどけたいところですが、しかし、私はそんなことしません。もう何年も前のことです、実際に覚えています。ある教えの中で牧師が、次のようなことを言っていたのを覚えています。

「イエスが命じたように、自分を愛するように人を愛することが難しい理由の一つは、自分自身を十分に愛していないからです。」！？ どの世界にそんなことが可能なのでしょうか？ 自分への愛が足りない？ 何だって？ 私は自分を愛しすぎています。いつも自分のことを考えています。あなたもそうですよね、そんな霊的な目で見ないでください。ショーウィンドのある店先を通ると、映りますよね。どうしますか？ (笑) さあ、正直になりましょう。昔の話ですが.....若い人たち、ちょっと我慢してください。遠い昔の、遠い国のことではありません。写真を現像してもらう時代がありました。とても不思議なことですよ。奇妙な話ですよ。コストコに行くと、「60分サービス」というのがあって、フィルムを持っていくと、買い物をしている間に写真をプリントしてくれるんです。どんな風に仕上がっているのか楽しみでした。奇妙ですよ。(笑) ちょっと待ってください、今、フラッシュバックしているんです。すぐに戻りますから。うわあ.....で、最初はどうかだったかということ、待ちきれないんですよ。実際、早く行ってしまうのです。「まだ出来てません、もう少しお待ちください。」私たちは自分の写真を早く見たいんですよ。やっと出来上がり、呼び出し音が鳴り、お金を払うのも待たずにその袋を開けて、写真に目を通し....どれが良い写真か分かりますか？ ほら... (笑) 自分が良く写っているものです。

(笑) OK、では現代の技術に置き換えてみましょう。今は獣のしる...つまり、スマホで撮っています。(笑) 監視装置、つまり私たちのすべての動き、ちなみに会話をも追跡し、すべての会話を聞いてくれるんです。(携帯電話に向かって) 君にはイエスが必要だ！ (笑) わからないですよ、何かあるんじゃないですか？ 私たちが天国に着いたとき、NSAの誰かが現れて、「あなた！」と言うのです。

「あなたが説教をしたのを、私は聞いていて、救われました。」主をたたえましょう、役立ちました。何が起こるか、わからないものです。では、現代に持ち込んでみましょう。これはやりすぎでしょうか？ お付き合いください。現代にたとえると、スマホで写真を 35 枚撮って、その中から気に入ったものだけを選んで.....つまり、彼らは素敵に映ってるけど、私はそうじゃないから、削除。(笑) 話していいですか？ では、あなたが良いものを見つけると、どうしますか？ ああ、彼らは.....私はこんなことはしません。神は私の心をご存じです。もしあなたがそれをして.....神はあなたを愛し、あなたを赦してください。しかし、フィルターがあり、アプリがあり、あなたを実際以上に美しくします。ちなみに、あなたもわかりますよね。自分の顔を見て思うのは、アプリはいらない、ということです。気にとめません。フォトショップ、忘れてください。フォトショップを使おうとすると、フォトショップの方が笑い、拒否します。だから、何もできないのです。ただ、栄光の体が必要なのです。新しい体と新しい顔、そして

髪の毛を手に入れることができるからです。「牧師さん、あなたは何が言いたいのですか？ あなたはここで要点はあるのですか？」ええ、ありますよ。何であれ、誰であれ、この自己の概念をあなたに提示するものは、おかしいのです。私たちの罪の性質のすべて、私たちの肉がこれを切望しているのですから、夢中になる前に逃げてください。霊は望んでいますが、肉は弱いのです、私たちの肉はそれを愛しています。私の肉は、自己に死ぬことを語る聖書の節が嫌いなのです。「俺を否定するな、その代償を払わせてやる。」「痛い目に遭わせてやる……」ああ、断食してみてください。ちなみに、断食の話は木曜の夜にしました。断食すると自分を否定し、自分を謙虚にすることになります。胃袋は、「一体何をしているんだ？」ということになります、「私は断食を勧めてはいません。不快感を伝えよう。」お腹が鳴ったり、空腹感があったり、つまり辛いのですが、その空腹感やお腹の鳴ることが起こるたびに、思い出すことができるので、それは良いことなのです。「主よ、私は自分を否定しているのです、私は自分に死んでいるのです。」ここからが本題です。生きたいと思うなら、死ななければなりません。これはキリスト教信仰の逆説的真理であり、早くそのパラドックスを受け入れることができれば、それに越したことはないのです。上り坂は下り坂。生きようと思えば、死ななければならないのです。牧師が自己への死を教えないとき、彼らは、与えるためにイエスが持って来られた豊かないのちを、神の民から奪っているのです。自分自身に死んでいないので、復活のいのちを経験していないのです。もっと早く決断していれば..と後悔したときに、自分の考えは正しかったことを実感することがありますよね？ 自分自身に言っていますが、私自身の人生において、唯一の後悔は、もっと早く自分を否定しなかったことです。なぜなら、ここに問題があるからです。自己を満足させることは決してできません。自己は飽くなきものです。あなたは井戸の女性のように、(ヨハネ4参照) —私もそうです— 自己を満たすためにこの水を飲んでも、また渴きます。それは時間の問題です。実際には、満足できないだけでなく、以前よりも空っぽになってしまうでしょう。最も満たされたクリスチャンとは、自分を否定し、自分に死に、十字架を負ってイエスに従ったクリスチャンです。それこそが、満たされたクリスチャンです。それが、喜びに満たされたクリスチャンです。彼らは自分自身に死んでいます。失礼な言い方になってしまっていれば、どうかご了承ください。しかし、死人はひるみません。死んでいます。病的に聞こえるかもしれませんが、人が自分自身に死んでいない証拠は、自己が傷ついているときではないでしょうか？ 自己が怒っているとき？ まあ、死んだ人は怒らないですよ。大丈夫ですか？ というか、確認しておきたいのですが、これはどうでしょう。

「死人に口なし。」(死人は感情を害さない) つまり、いくらでも挙げることはできますが、おそらく聖霊によって、あなたが自分自身で、自分の人生の中でそれを行うことができると思います。聖霊に導かれるままに、挙げてみてください。死人はこれをしません。死人はそれをしません。と。あなたはひるみません。使徒パウロが使徒の働き 20 章で、「私を動かすものは何もない」と言っているのを知っていますか？ この男は…つまり、何にも動かされない？ あれらすべてを経験したのに？ 私たちはちょうどあなたが書いたコリント人への手紙を読み終えたばかりですよ、パウロ。あなたを動かすものは何もない？

「ええ、私はもう死んでるから。動じることはありません。私はすでに自分自身に死んでいるので、反応しないのです。」繰り返しになりますが、失礼なことを言うつもりはありませんが、これが真実ですよ？ 私は自己に死んだのです、自己への権利に死んだのです。ところで、…まあ、主に求めたので、話したほうがいいと思いますが…今の世界では、このようなことが一日に千回も行われているのを見ているので、実際に心が痛みます。それは、「私たちの権利のために戦おう」という感じです。

「あなたには権利がなく、私は、自分の権利のために立ち上がる」と。ふむ…、OK…、それは、私たちが

戦わないということですか？ 全然そんなことはありません。むしろ、戦いの決意を強めることになるはずですが、それは正しい戦いである必要があります。私たちは何のために戦うのか？ 「自分たちの権利のために戦うのです！」それが自己です。それは戦いではありませんし、信仰の善い戦いではありません。もし私が自己に死んでいるなら、私が戦うことができるのは信仰の戦いだけです。イエス・キリストのゆえに。「あなたには私にそんなことをする権利はない！」という感じです。本当に？ 啞然としました、息を呑むほどです、本当に。そして、皆さんも神の御言葉を読む時に、イエスが裁判にかけられた時の記述をもう一度見てみてください。イエスは口を開きませんでした。そして、つまり、
「何だ、自分を守る気がないのか、自分のために戦う気がないのか」という不満や苛立ち、焦燥感です。そして最後に、イエスはこう言われたのです。

「わたしの王国はこの世のものではない。もしわたしの王国がこの世のものであれば、わたしの弟子たちはこの件で頭がいっぱいになっているだろう。彼らは戦って、戦って、戦うでしょう。しかし、その戦いではありません。」

先週、ペテロのことを考えていました。私はいつもペテロのことを考えています。あの人が大好きで、早く会いたいです。私はただ...あの人に敬意を表さなければなりません。ここで、彼らはイエスを逮捕するためにやってきました。さて、ペテロ、ヤコブ、ヨハネは、起きていて祈ることができなかったのも、イエスに叱られたばかりであることを心に留めておいてください。イエスは十字架の上で何が待っているのか知っておられ、ご自分の血を流しながら、父なる神に、尋ねておられます。

「父よ、御心ならば、この苦しみの杯を私から過ぎ去らせてください、しかし、わたしの願いではなく、御心のままにしてください」と。そして、イエスが戻ってこられた時、彼らは眠っていました。もちろん、ペテロは初めてではありませんよね？ ペテロには睡眠障害があったと思うんです。彼が寝ているところがたくさんありますから。それは推測であって、何かの文章に基づいているわけではありません。

それで、イエスは戻ってこられ、彼らを叱責し、こう仰られたのです。「あなたたちは、1時間くらいも起きて祈ることもできなかったのですか？」それで、彼らは目を覚ましました。すると突然、ローマの衛兵がやってきて、イエスを逮捕しようとしてきました。そして、興味深いことに、ユダはイエスを識別するためにキスをしなければならなかったのです。つまり、イザヤが言うように、以前話したように、イエスには目立つところがなく、外見も私たちが望むようなものは何もなかったということです。つまり、イエスは他の誰よりも背が高くはなかったのです。イエスには、その、…イエスに対する皆さんのイメージを壊すかもしれませんが、イエスには後光はなく、光り輝いてはいませんでした。オ～オ～オ～♪ …いいえ、イエスの見た目はただ、、ええ、申し訳ありません。イエスはおそらく私によく似ていて、中東系で、青い目と金髪ではなかったと思います。申し訳ありません。それで彼らはイエスを逮捕しに来たのですが、ペテロはどうしたのでしょうか？ 剣を取り出します。再び、彼に敬意を表さなければなりません。

「絶対にそんなことさせない」みたいな感じです。そして、剣を取りマルコスの耳を切り落としました。そして、イエスは…まず最初にイエスは耳を癒しました。私たちは天国でマルコスに会うことになるでしょう。もし私がマルコスで、そんなことがあったら、私は救われます。

「これこそ救い主です！今の見たか？お前が俺の耳を切り落としたのに、元に戻して癒してくれたんだ！」私は救われますよ。マルコスは天国にいると思います。繰り返しになりますが、私の単なる憶測です。この話に結論はあって、深い話なので、お付き合いください。イエスはペテロに何と仰ったのか？

「ペテロよ、あなたは何をしているのか。あなたは霊的な戦いを肉体的な武器で戦おうとしている。これは

靈的な戦いなのです。」

ところで、ペテロの動機は何だったのでしょうか？「よくもそんなことを、私の救い主を！」それは自己です。そして、イエスはこう仰います。「ペテロよ、だめだ、違います。」パウロはコリント人に宛ててこう書いています。

「私たちの武器は肉のものではありません。」(Ⅱコリント 10:4 参照)

私たちは、肉的な武器で靈的な戦いをしています。自分の肉のエネルギーの中で靈的な戦いをしているのです。ところで、これこそサタンの思うつぼであることに注意しなければなりません。サタンは、私たちを靈的な領域から肉的な領域へ連れ込もうとしているのです。なぜなら、自分の縄張りだからです。

そして、サタンが私たちを肉的な領域に連れて行けば、ゲームオーバーになってしまいます。靈的な領域に留まっていると、サタンにとってゲームオーバーなのです。イエスが悪魔の誘惑を受けられたとき、神性でサタンを倒したわけではありませんよね。イエスは人間性においてサタンを倒しました。どのようにですか？ 御霊の剣である、神の御言葉、つまり聖句です。聖句です。ヤコブはこう言っています。繰り返しますが、待ちきれません。実は気をつけないといけないのは、私はヘブル人への手紙についてもそう言ったのです。「早く、ヘブル人への手紙に入るのが待ちきれない」と。ヘブル人への手紙を読み終えた後、私はとても元気になりました。あなたもそうなると思います。つまり、この書には、いい意味で打ちのめされました。それで、ヘブル人への手紙で打ちのめされたら、ヤコブの手紙がとどめを刺すんですよ。つまり、あなたを打ちのめすという話です。ワオ！ しかし、ヤコブはこう語っています。

あなたがたの間に争いや戦いを起こすものは何ですか？ (ヤコブ 4:1 参照)

自己。自己、プライド。あなたは自己を死なせていない。自己が死んでいる人は議論をしないですよ、これに気づいていますか？ ところで、議論するには2人必要ですよ？ タンゴを踊るには2人必要なのは知っています。議論するにも2人必要ですよ？ あなたは今まで誰かと議論しようとしたり、すでに自己が死んでいる人と戦おうとしたことがありますか？ それは、「さあ、かかってこい」「いや、私はもう死んでいます。」というようなものです。死人は戦いません、私はもう自己が死んでしまったのです。そして、体温を測ったり、何かを聞き出そうといろいろなことを言ったりします。私が何を言っているのかわかりますよね？ 困ったことに、彼らはあなたを肉の思いに持っていきたいのです。お聞きください、私は何の助けも必要ありません。1人でとても良い仕事ができます。ありがとうございました。肉の思いに入るのに誰の助けも必要ありません、肉の思いはすぐそこに用意されているのです。ここからが本番です。そして、最後の質問に進みます。自己への死の真理を否定したり、軽視したりする教えは、福音に反するものです。あなたの十字架を負ってください。おしまいにしてしまおう、自己に死ぬのです。

「私は尊厳ある死を迎えたいのです。」いいえ、それは死、ただ死なせてください。あれは古い人であって、もう生き返らせようとするのは止めてください。いいえ、彼は死んでいます。自己が死ねば、そうすれば、あなたは生きるのです。ああ、あなたは生きるでしょう！ それが生きていくということなのです。

ここで3つ目、最後に15節から16節です。「それは私を絶え間ない賛美から遠ざけるか？」

この点で、もし私が最高のリトマス試験紙は何かと問われれば、この著者がここで言っていることがそれにあたるでしょう。つまり、それは、主を賛美し、私をより主に近づけるのか、それとも逆に、それは、私を主から遠ざけてしまうのか、ということです。これは、私が長年にわたって経験してきたリトマス試験の一つです。それが指標であり、人生のあらゆる分野で共通しています。休養、趣味、友情、関係、娯

楽で、その空欄を埋めてください。_____は、私が主を賛美し、私を主に近づけるものであるか？ それとも、かえって私を主から遠ざけるものなのか？ もし主から遠ざけるものであれば、それはおかしいです。主から遠ざかる前に、離れてください、逃げてください。それがリトマス試験です。例を挙げてみます。ある人がこの信念、この教義を持ってあなたのところにやってきます。そして、彼らは

「もしあなたが本当に救われているなら、それはこのように証明されるでしょう」と言います。待って、本当ですか？ あなたが祈ってキリストのもとに来たとき、自分が本当に救われたとどうやって知ることができるのでしょうか？ 待って、私は今、救われていないの？ 救われたと思っていました。キリストのもとに来たとき、聖霊が宿っていると思ったからです。贖いの日のために、私を封印するための聖霊を与えてくださったのです。私の聖書にはそう書いてあったのに、今、あなたがそんなこと言うなんて... ああ、私はちゃん出来てなかったんだ。火曜日に、曇り空でウインドワード山側にわか雨が降ったら、赤と紫の水玉模様の靴ひもをつけなければならなかったんだ。いいえ、それはちょっと変だし、それだけでなくあなたが今したことは、私とイエスの間に不和を持ち込んだようなものです。そして今、突然、あなたは疑いをもたらし、私の心に疑いの種を植え付け、私を連れ去り、主から遠ざけたのです。よし、これはどうでしょう？

「あなた方は真理を知り、真理はあなた方を自由にします。」そうですね？（ヨハネ 8:32）

そして、「御子が自由にされた者は、本当に自由なのです。」（ヨハネ 8:36 参照）

よし、それにしがみついてください。では、もう1つ追加しましょう。ヨハネは言っています。

「主の命令は重荷にならない。」（Iヨハネ 5:3 参照）

ヤコブ、アップデートの際にお話しました。またしても、待ちきれません。そんな感じです。

彼は「上から来る知恵は、まず純粹であり、次に平和で優しく、協調性があり、合理的で、あわれみと良い実に満ち、偽善や偏見のない、義にかなった実を結ぶものである」と言っています。（ヤコブ 4:17 参照）繰り返しますが、それが主からの知恵なのか、世からの知恵なのかを見極めるリトマス試験紙なのです。このテンプレート、グリッドが整列しているか、一致しているか、互換性があるのか？ もし主の命令が重荷にならず、真理は私を自由にするとしたら、嘘は私に重荷を負わせるのは、道理に適っていないのでしょうか？ 同じことを別の言い方で言わせてください。もし誰かが私のところにやってきて、私に重荷を負わせ、それが主から遠ざけるような影響を及ぼすなら、主への賛美と、主に喜ばれる良いことをすることから遠ざけるなら、ヘブル人への手紙の著者が記しているように、それが私を遠ざけるなら...、それは真理ではありません。なぜなら、真理は私を自由にしてくれるからです。嘘は私に重荷を負わせます。主の命令は重荷ではなく、負いやすく、理にかなっています。だから、もし誰かが私のところに来てこう言います。「ええ、あなたはこうする必要があり、こう求められている。」好きなように空欄を埋めます。「おお、あなたは異言で話し、安息日を聖なるものとし、水のバプテスマを受けなければならないのです。」つまり、もし良ければ私は別のリストも挙げられますが、皆さん、自分のリストがありますね？ 私が信者になりたての頃、聖書が手放せませんでした。最初から最後まで読みましたが、半年かかりました。グッドニュース・バイブルを持っていました。私はそれを持っていなかったもので、買いに行かなければなりませんでした。グッドニュースバイブルを覚えていますか？ つまり、それは限られた語彙ですが、それすらも時間が掛かったのです。私は多くの脳細胞を殺しました。自慢できることではありませんが、とにかく。そこでグッドニュースバイブルを1冊手に入れ、創世記から読み始めました。私はそうすべきではなかったかもしれませんが。ちなみに、ヨハネの福音書から始めるのが良いとされていますよね。

なぜなら、レビ記に入ると...レビ記の全ての要件や制限、そして動物のいけにえ・・・私は白紙の状態でした。覚えておいてください。これらの動物について読んでいたのです。私はこんな感じでした。「！！？」私は罪を犯すたびに、動物を犠牲にしなければならないのかと思いました。たくさん家畜がいます。そんなことはしたくないです。そして、新約聖書にたどり着き、そして、イエスが一度きりの生けにえであることがわかったのです。私は、こんな感じでした。「ああ、完璧です！イエスよ、感謝します！」

「私はしなくていい...あなたが神の子羊です。子羊を捕まえに行こうと思っていました。子羊はいらない、あなたが神の子羊です。」おかしいですか？ 何でもいいんです。だから、私は聖書を手放せませんでした。そこで、私がここにいます。それは夏です。晴れた日に公園で聖書を読んでいます。ただ、つまり、すべてがイエスのこと、イエスのことだったのです。そして、ある男が歩いてきて、「君は聖書を読んでいるようだね」と言ったんです。つまり、聞いてください、私はそれほど多くの脳細胞を殺していなかったのです。私はこの男を見ながら、「見ればわかるだろ？」って感じです。しかし、とにかく、彼は次のように進めました...彼がこれから言おうとしていたことは、私に重荷を負わせるための仕込みだったのです。彼は「異言を話すことで証明される、聖霊のバプテスマを受けたことがありますか？」と言うのです。私はまだ、その部分に到達していませんでした。「舌(異言)ですか？ひとつ持っていますが...何ですか？」そして、そのことが私を混乱させ、落ち込ませてしまいました。まるで、風船を割って泡を吹き飛ばすようなものです。そして、それはまさに「風穴をあける」ということなのです。私は萎えてしまって、打ち負かされてしまって、ああ...！って感じでした。それで、アパートに戻って、異言で話そうとしたのです。私は、「聖霊で満たしてください、ダダダ、ホンダ、ホンダ、ホンダ...」と、そんな感じでした。

彼は「やってごらん、そのうちできるから」と言いました。それでやってみたら、なんということでしょう...。とても無邪気に祈っていたのを覚えています。「主よ、私は救われたと思っていました。私はもっと救われなければならないのでしょうか。だって、この人は私より救われているようで、彼は聖霊を受け、私は受けておらず、彼は異言を話し、私は話さないからです。」それで、どうしますか？ そして、私はよく.....。これは1982年のことです。私が5歳の時です、計算しないでください。とにかく1982年、その頃、「Majesty」という曲がありました。あの曲、覚えてますか？ なんということでしょう。私は1979年製のフォルクスワーゲンラビットに乗っていました。茶色です。私たちはその色を「留まる茶色」と呼んでいました。ええ、ついてたんですよ。またまた、若い人たち、それはカセットテーププレーヤーだったのです。プラスチックのカートリッジで...とにかく、そのテープを手に入れて、全開で再生していました。そして、信号待ちでハンドルから手を離しますよね♪マジェスティ(偉大な方)、主をあがめよう...♪そして、この男が私の前に現れた後、「マジェスティ！」ではなく、むしろ「マジェスティ...？ そう言っているんですか？」最後にもうひとつ、そして締めくくります。詩篇16篇11節だったと思います。間違っているかもしれませんが。ダビデが書いています。「あなたの御前には喜びが満ち溢れています。」あ、待ってください、16篇11節ではありません。"He inhabits the praises of His People" (主は民の賛美の中に宿られる) この歌はよく知られていますよね？ お分かりいただけましたか？ 主は民の賛美に宿られるのです。さて、敵は...まず第一に、敵は私たちよりも聖句を知っています。主が民の賛美に宿られることを知っているのです、私たちの主への賛美を邪魔できるとしたら、それをしようと思いませんか？ なぜなら、敵が引き離すことができれば、...それは私たちの祈りの生活と同じですが、それはまた別の機会にお話ししたいと思います。実は木曜の夜に祈りと断食の話をしたのですが、「なぜ、祈りが答えられないのか？」しかし、敵はそれが力の源であることを知っています。特に木曜日の夜に行われる

週半ばの聖書の学びに来ている人は、木曜の午後がどんなときかわかると思います。仕事から帰ってくると、皆さんもそんな日がありますよね？ もう毎日がそうですが、「ああ、疲れた」となるのです。そして、食べてはいけないものを食べて、眠気が襲ってきて、「ああ、もう疲れた」となります。「私は行きたくない。」私は聖書の学びを教えるので、ここにいなければならないのです。しかし、どうしても気分が乗らない時や本当に疲れている時ってありますよね。でも、ここに来て、神を賛美し始めると、あら不思議、来てよかったと思うのです。つまり、それがなぜなのかわかりますよね？ だからこそ、敵はあなたを来させたくなかったのです。なぜなら、もし敵が賛美と祈りのつながりと力の源を断ち切ることができたら...神は民の賛美に宿ることを敵は知っているのです、敵はあなたがそれをしないようにするために、あらゆることをするからです。そして、あなたはここに来て、主を賛美し始め...[咳]私はぜんそくなのです。でも、それはゆるしてください。言っていることがわかりますよね。もうすぐ終わります。そろそろ説教も終わりにしたほうがいいですね。しかし、敵はそれを知っています。だから、あなたが祈るために足を踏み出すと、文字通り、大混乱に陥るのです。サタンは、あなたが祈り、主を賛美するのをやめさせることができれば、あなたを捕らえることができるからです。それが力の源であることを知っているからです。いったん主を賛美し始めたら...よし、最後にもうひとつだけ。このことを一緒によく考えてみてください。以前にもお話したことがあります。時には気分が乗らない時もあるでしょう。そんな時こそ、賛美の歌をかけて、大声で主に向かって歌う必要があるのです。「ええでも、そんな気分にならないのです。」その通りです。やってみてください、気持ちは後からついてきます。サタンが嫌いなもの、我慢できないものがあるとすれば、それはイエスへの賛美です。ちなみに、賛美の歌は、イエスを賛美する歌にしましょう。当たり前のことを言っていますが、実はそうでもないのです。

最近のワーシップミュージックの中には、「待って、何？それは誰に対して？おかしいな。誰に向かって歌っているんだ？ どの神？どの神なの？ 待って、待って、待って、その歌は...その言葉は、ここ（聖書）にはないと思う。この中にあると思いません。」敵はイエスの御名を聞きたくないのです。だから、「神」と言っても、悪魔は冷静に見ているのです。しかし、あなたが「イエス」と言うと、悪魔は逃げます。それは、あなたが悪魔にしてほしいことですよね。悪魔に抵抗すれば、悪魔は逃げていきます。少しでもお役に立てれば幸いです。お立ちください、賛美チームに出てきてもらいます。もうすぐこの書が終わりますね。ヘブル人への手紙を終えるのは、ちょっとほろ苦くないですか？ それでいいのです。ヤコブの手紙が助けに来てくれます、恐れることはありません、ヤコブの手紙はもうここにいます。

祈りましょう。天の父よ、あなたの御言葉を心から感謝します。ちょっと厳しい言葉かもしれませんが、確かに良い言葉だと思います。主よ、霊的な識別力を与えてくださり感謝します。私たちに聖霊と霊を見分ける力、つまり、あなたのものでないものを見分けることができる賜物を与えてくださったことを感謝します。主よ、あなたの御言葉に感謝します。私たちが御言葉の中に入るのではなく、御言葉が私たちの中に入り込み、それが私たちの人生に必要な影響与えてくださるのです。そして、私たちは今、あなたの御言葉の中でこの時間を共に終えるにあたり、あなたがそうしてくださるよう祈っています。

主よ、あなたは今、聖霊によってそれを次のレベルへと導く必要があります。ヤコブの手紙にもあるように、私たちが、ただ御言葉を聞くだけで、御言葉を行わない者たちの中に数えられないように。私たちは、御言葉を実行する者でありたいのです。主よ、あなたに感謝します。イエスの御名前において。アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオへ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7